

文科省の青山 伸 大臣官房審議官(研究開発局担当)が資料 40-2(地球サミット)を説明した後、下記の様な質疑応答が行なわれた。(南アフリカのケープタウンで開催され、「ケープタウン宣言」が採択された。日本は GEOSS の構築の加速、センチネル・アジアの成果、日本が世界に貢献するという意思、GEOSS の成果の普及などを表明した。宣言の中にはGEOSS の継続的な強化も謳われている。)なお、録音機を持参し忘れたため、発言通りには記録できていない。

松尾:何かご質問は御座いますか。

青江:GEOSS の構築について、ベルギーから2年半経っている訳ですが、衛星に於いて具体的にどのような進展があったのですか。

青山:GEOSS システムの部分的な進展が御座いました。画像データの互換性を高める事などです。

青江:日本ではGCOM-Wが打上げられましたね。他の国々で何が、と、こう言って頂くとビジュアルで分かり易いんですがね<sup>1</sup>。

青山:皆でヨーイドンで色々な取り組みをやっていきますので、中々上手に表現できません。

青江:進んでいるんですか。

---

<sup>1</sup> 良い注文を出して頂いた。外務省や他省庁に活動を紹介し、夫々の関心事をコメントして貰わないと、「国際的に良い人を演じている」だけの事になりがちで、国力の向上につながる活動にならない事が危惧される。

青山:進んでおります。

青江:一回、纏めてお話し頂けると有り難いんですが。

青山:工夫してみます。

池上:衛星を持たない国が多いですね。彼らは何を期待しているんですか。

青山:水に関する関心が深い国が多々あります。また、南アフリカは、アルジェリア、ナイジェリアと組んで、衛星を作ろうとしています。

池上:総合科学技術会議でも、科学外交と言っていますが、そう云う話は出たんですか。中国はそう云う事を考えているようですか<sup>2</sup>。

青山:地球規模でと云う事になれば、そう云う事が大事になってきます。我々としては、国際的に貢献することが大事だと云う事で取り組んできています。

松尾:共同議長国はどう云う風に決まるんですか。

青山:(聞き逃した<sup>3</sup>) (日本は嘗て共同議長国であったが、定義した事によって、中国に代わったようである。)

青江:東京・ベルギーでの日本のコミットメントは、従来より重くなったんでしょうか。

青山:はい。会議の中で日本の貢献に対する謝意の表明も有り、重く受け止めて頂いているという実感が有ります。

青江:衛星の開発と打ち上げと云うものは、やって行くと云う事に

---

<sup>2</sup> 此処はもっと正確に記録したかった。残念である。

<sup>3</sup> 此処も同じく聞き取れなかったのが残念である。

なるんでしょね<sup>4</sup>。世界に対する責務として。

松尾:重くなっていると云うのは?

青山:科学技術の進歩に依っています。衛星観測データを基に計算した結果に対し、Very likely と評価を受けて居りますし。

青江:今回のサミットでは、日本は以前のようにコミットしなかったように感じるが。

青山:其れはベルギーの時に 10 年計画をコミットしたので、今は其れを実行している処で、新たなコミットメントは有りませんでした。

---

<sup>4</sup> 「衛星をシリーズで作り、打ち上げ、連続性のある観測を続けることが重要である。」と言っているのであろう。ところが、その先の困難について言及頂けない。其れを国内企業が連続的に受注し、絶え間ない技術の向上に努めて頂かなければならない。公開の場では議論し難いが、おかしな片務協定が存続している中で、どのように技術向上を演出するのか、真剣な議論が望まれている。